

第 21 回日本消化管学会総会学術集会・第 18 回日本カプセル内視鏡学会学術集会 合同セッション

「小腸疾患の診断、治療の最前線」

司会 矢野 智則（自治医科大学附属病院光学医療センター内視鏡部）
加藤 真吾（埼玉医科大学総合医療センター炎症性腸疾患センター
消化器・肝臓内科）

カプセル内視鏡とバルーン内視鏡の登場により、長らく観察困難で暗黒大陸とされてきた小腸にも内視鏡が到達できるようになった。従来まれと思われていた小腸癌などの悪性疾患、クローン病をはじめとする炎症性疾患や様々な疾患の小腸病変が観察可能となった。診断のみならず、内視鏡所見に基づいた治療最適化や内視鏡治療も可能になった。内視鏡や処置具も改良が続けられ、小腸疾患診療は目覚ましく進歩してきている。このセッションでは小腸疾患診断・治療に関する最新の知見や工夫に関する演題の応募を期待する。